



創立1880年

〒169-0051  
東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館6階  
Tel 03-6302-1960  
URL http://tokyo.ymca.or.jp  
発行所 公益財団法人 東京YMCA  
発行人 菅谷 淳

# 東京YMCA 11

2024

## 東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

# YMCA国際ナショナル・チャリティーラン

## 障がいのある子どもたちへの支援総額 4,100,000円



「第38回東京YMCA国際ナショナル・チャリティーラン2024」が9月28日、都立木場公園で開催されました。この駅伝大会は、障がいのある子どもたちの支援と障がいへの理解促進を目的として1987年に東京で始まり、現在では全国21カ所のYMCAで開催されています。

当日は、今大会より全国大会委員長に就任したパリ2024パラリンピック競技大会競泳メダリストの富田宇宙さんも駆けつけ、ランナーとしても参加しました。レースには企業、団体、東京YMCAの各部署より41チーム計247人が参加。レース前の「こどもラン」への参加者約300人、ボランティア・スタッフ約270人と応援者を合わせると約1,300人が来場し、熱気あふれる大会となりました。また、会場内で能登半島豪雨緊急支援募金の呼びかけがあり、22,407円が寄せられました。皆様のご支援に心より感謝申し上げます。(広報室)



レース前の「こどもラン」(小学生の部)



### 東京大会実行委員長 上田晶平さん

今年、パラアスリートでもある全国大会委員長の富田宇宙さんに参加いただき、大会を盛り上げていただきました。富田さんはパラリンピックのメダルも持参され、子どもたちは初めて見る本物のメダルに目を輝かせていました。

富田さんを含む多くの障がいのある方々に加え、インターナショナルスクールやにご学院の生徒さんも参加し、国籍や年齢、障がいの有無によらず、多彩なランナーがひとつ空の下で共に過ごすことができました。

また、多数の会員や学生の皆さんにボランティアとしてお手伝いいただきました。全国スポンサーである三菱商事株式会社様をはじめ、多くの協賛企業様やワイズメンズクラブなどにもご支援、ご参加いただきました。改めて感謝申し上げますと共に、来年もご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2面へ続く



チャリティーランの詳細はホームページで

## 世界YMCA同盟と協働する企業も参加

世界中のYMCAの一致した行動目標「VISION 2030」。その柱の1つである「Meaningful Work (やりがいのある仕事と雇用環境の創造)」の促進のため、世界YMCA同盟が進めているエンハサ\*との協働プロジェクトの一環として、日本エンハサ株式会社がチャリティーランに参加しました。

東京YMCAと日本エンハサ株式会社が協力して子どもや若者を支援する取り組みは、2025年4月までの予定です。

\*グローバル企業の環境・衛生・労働安全関連の法令遵守を支援している。本社をブリュッセルに置く



日本エンハサ株式会社のチーム「Protecting a sustainable future, running now \* Enhesa」



たくさんの声援を受けて 伴走者と走る富田さん



パラリンピックの2つの銅メダルを手を持つ子どもたちと、笑顔で応じる富田さん

## 全国大会委員長の 富田宇宙さん 大会の意義を力強く語る



富田さんのランナーとしての参加や子どもたちとの交流により、大会が活気づき、大会の目的がさらに促進されました。

大会後のインタビューでは「多様な人々が参加し、ランを楽しむことが子どもたちの笑顔や成長につながるのには素晴らしい循環。今後も、自分ができることは尽力していきたい。多くの声援の中を走るのには気持ちよく、水中では声援が聞こえない競泳とは違うランの良さを改めて実感した。とても楽しかった。」との感想を述べられました。

## 赤三角

母校の高校のキャリアパスの授業でYMCAの話をする機会があった。今年で4回目。さまざまな分野で働く「先輩」

たちの話を聞き、生徒たちが将来の仕事を考える参考にするためのものだ。▼事前に配布された「先輩」たちのプロフィールを見て、各々が「聞いてみたい仕事」を選び、教室へやってくる。

教師、薬剤師、芸能分野、外務省や総合商社で働く人、システムエンジニアなど、馴染みのある仕事や華やかなイメージの職業が並ぶ中、「公益財団法人東京YMCA」に飛びつく若者は少なく、人気投票のような残酷なシステムだ。▼試行錯誤の末、生徒たちの目に留まる「プロフィール」に「Think Globally, Act Locally」という英語を入れてみた。「国際」英語に興味のある生徒が増え、今年初めて二桁を超える生徒が集まった。

▼YMCAへの入口は、そこにある。キャンパス、プール、英語クラス、保育園や専門学校、地域センター、駅の看板も。どこの入口から入ってきた人にとってもYMCAがより身近なものとなるように、スタッフ一人ひとりに親しみをもってもらえるように、今日も一日笑顔で過ごそう。(語学教育AD 柳原みずき)

入賞チーム

- 1位 「東京YMCA国際ホテル専門学校」
  - 2位 「社体保チャレンジャーズ」東京YMCA社会体育・保育専門学校
  - 3位 「ロイヤルレッド」しのもめYMCAこども園
  - 4位 「社体保ランナーズ」東京YMCA社会体育・保育専門学校
  - 5位 「マウンテン ペーパー」(東京YMCA山手センター)
- \*スポンサー：上田八木短資株式会社

\*チーム参加費をご寄付いただく形での参加方法



優勝チーム「東京YMCA国際ホテル専門学校」富田大会委員長(中央)を囲んで

特別賞

- 三菱商事DREAM AS ONE賞 「高等学院Dreamers」東京YMCA高等学院
- 38回大会賞 「密林の颯」Amazon Japan
- 最高年齢賞 「端数倶楽部チーム1st」端数倶楽部
- コスチューム賞 「わたあめ ふわふわ」東京YMCA江東コミュニティセンター・江東YMCA幼稚園
- 隠しタイム賞 「さんかく」東京YMCA多文化共生スペース▽(さんかく)



コスチューム賞の「わたあめ ふわふわ」

チャリティーランを支えるボランティア

今大会も、多くのボランティアが活躍しました。チャリティーランは、障がいのある子どもたちを支援するために、ランナーやスポンサーの他にボランティアとしても参加できます。



ゴミ箱作り



テント組み立て



ランコース設営



チーム受付



ボランティア受付



「こどもラン」参加者へドリンク配布



インターナショナルスクールの生徒によるヒップホップダンス



にほんご学院による整理体操



パン・飲物引換所



社会体育・保育専門学校による「救護トレーナーブース」

このたびの豪雨により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

東京YMCAは10月6日から10月28日まで、延べ21人のスタッフと東京YMCA国際ホテル専門学校、東京YMCA社会体育・保育専門学校、東京YMCA山手センター、東京YMCA多文化共生スペースの5校の学生5人の延べ33人を派遣しました。現地ではボランティアセンターや富山YMCAの活動に参加して、泥かきや廃棄物の仕分け、壊れた家具の運搬、スパーやお寺の清掃や復旧作業、ガレージや道路の清掃などを行い、子どもたちとの交流もありました。

参加した学生たちは、現場で黙々と作業し、時

東京YMCAから延べ33人を派遣しました。

東京YMCAは10月6日から10月28日まで、延べ21人のスタッフと東京YMCA国際ホテル専門学校、東京YMCA社会体育・保育専門学校、東京YMCA山手センター、東京YMCA多文化共生スペースの5校の学生5人の延べ33人を派遣しました。現地ではボランティアセンターや富山YMCAの活動に参加して、泥かきや廃棄物の仕分け、壊れた家具の運搬、スパーやお寺の清掃や復旧作業、ガレージや道路の清掃などを行い、子どもたちとの交流もありました。

2024年1月1日の能登半島地震後、輪島市の要請で全国のYMCAが協力して6月末まで輪島市町野町の避難所運営を支援しました。今回の豪雨でその避難所周辺も浸水し、地震で倒壊したままの建物に土砂が流入して、復興がさらに難航しています。町野町を支援するため、再び全国のYMCAからスタッフとボランティアが派遣されました。

「能登の庄」の協力は、東京YMCA国際ホテル専門学校の卒業生が経営する老舗旅館「能登の庄」は、震災以降断水し続いたものの、震災時に引き続き今回の支援活動でもスタッフや学生の宿泊場所としてご協力いただきました。また、国際ホ

能登半島豪雨支援

**能登半島豪雨 YMCA緊急支援募金**

皆さまのご支援をお願い申し上げます

●銀行振込  
三菱UFJ銀行 神保町支店 普通 2304804  
ザイ)トウキョウワイエムシイエ

●WEB募金  
右記のQRコードを読み取り、お手続きください。東京YMCAのホームページでもご案内しています。

街頭募金を実施

多くの方が参加し、被災地支援を呼びかけました。

長光寺の清掃と修復作業

街頭募金の合計額

10月3日 高田馬場駅前 113,008円

10月3日 東雲エリア 47,044円

10月8日 東雲エリア 6,811円

10月23日 高田馬場駅前 68,763円

街頭募金の合計額 235,626円

(11月7日現在)

東京YMCAの支援活動報告はこちら

# 身近なことから ～ Y M C A X S D G S ～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



私たちは現在、平和、飢餓、環境や気候変動などの深刻な課題に直面しており、今すぐに行動を起こさなければ子どもたちに豊かで可能性のある未来を残せなくなる危機にあります。

東京YMCAは、「誰一人取り残さない」持続可能で包摂的な社会の実現を目指すSDGs（17の開発目標）の達成に向けて、小さな取り組みから始め、活動を広げています。

## 子どもたちの「やりたい」を大切に 芝浦学童クラブ 中山百合江

児童館や学童クラブなどの居場所事業では、以前からごみ拾いや節水、手洗いうがい、ジェンダーなど、環境や健康、性に関する問題について子どもたちと共に考えながら活動してきました。3年前からは、各施設のスタッフが集まり、SDGsの17のゴールのうち、③「すべての人に健康と福祉を」、⑤「ジェンダー平等を実現しよう」、⑩「人や国の不平等をなくそう」、⑯「平和と公正をすべての人に」を軸に、居場所事業だからこそでできる活動を実行しています。



「みんなの夢 なりたい自分」



スタッフの自己紹介カード

その一つに、“人となりを知ろう”と題した活動があります。“人となり”とは生まれつき持っている性質のこと。学校生活や仕事だけでは関わりの薄い仲間に向けて、自己紹介カードを作成し、人生のバイブルになった本や「なりたい自分の姿」などを発信することで、自分を知ってもらい、相手を知る機会を作っています。互いの違いを知り、相手を受け入れることが、誰一人取り残さない社会を実現するために大切だと考えます。

芝浦学童クラブには「こどもSDGs委員会」があり、②「飢餓をゼロに」と③「すべての人に健康と福祉を」について考えるプログラム「世界のおやつをのぞいてみよう」を行いました。世界のおやつを調べる中で、世界にはおや



世界のおやつを調べ、気づいたことを発表し合った

つどころか食事さえ十分に得られない国があることを知り、学童クラブで提供されるおやつは食べられる分だけを取って無駄にしないよう意識するようになりました。このことは、自分たちにもできることがあると気づくきっかけとなりました。



世界のおやつ

子どもたちは、日常的に、「この空き箱で面白いものが作れそう！」と思うと、おやつの空き箱や段ボールなどを使って工作を行います。子どもたちから「作った作品で作品展を開きたい」という声上がり、SDGsの目標⑯「つくる責任 つかう責任」を意識しながら、工作材料の切れ端やペットボトルなどの廃材を集めて作品を作り、展示会を開催しました。



「SDGs大工作展 in 芝学」で展示された作品

捨てられるはずの物が新たな物へと変わる経験を通して、簡単には捨てずに再利用できないかを考える意識が子どもたちの中に芽生えたように感じます。また、家庭からの工作材料の持ち込みを可能にしたことで、家庭でも使える素材について話す機会があったとの声もいただきました。



「SDGs大工作展」の感想は、誰もが自由に書き、自由に読めるようにした

これからも、子どもたちの「やりたい」という気持ちを大切にしながら、活動を続けていきたいと思えます。

### 東京-NY フロストバレー便り

\*ニューヨーク近郊の日系人を対象にキャンプ等を行っている「東京-フロストバレーYMCAパートナーシップ」。現地に出向中のスタッフのお便りを紹介します。

ユニバーサル野球をご存知だろうか。これは、鉄道車軸整備と点検を行う堀江車軸電装(株)が開発した、誰でも平等に参加できることを願ったプログラムである。特製の巨大な野球盤で野球を行い、「人から応援される喜び」「人を応援する大切さ」を学ぶプログラムとして、日本各地で開催されている。

そのユニバーサル野球がニューヨークで開催された。ニューヨークにある日系のスペシャルニーズのある子どもたちとその家族の会「アップルタイム」がプログラムの主催者側とSNSでつながったことがきっかけで、コロナ禍を経ての開催となった。東京パートナーシップと長年関わりのあるこの家族会より協力依頼があり、インターンの下村春男さんとジュニアリーダー(NY在住の高校生たち)が参加。家族会と共にプログラムを運営した。開会式には特別ゲストとして、元ニューヨーク・ヤンキースの松井秀喜さんがサプライズで駆けつけ、子どもたちやボランティアを激励した。プログラムは大成功に終わり、参加した子どもたちも大喜びであった。会場には、東京YMCAが実施している「能登半

島地震緊急支援募金」の募金箱も設置され、多くの方からご厚志を預かった。

このように、今年は、コロナ禍で中断していたコミュニティ活動を再開し始めた。多くの同窓生やユースリーダーたちが、年間を通して東京パートナーシップのプログラムに携わる機会を増やすことで、担い手としての意識を強めたいという願いがある。

コミュニティ活動の再開が相乗効果となり、サマーキャンプには今年も多くのキャンパーとリーダーが参加した。また、同窓生たちも休暇を使って駆けつけてくれ、日米の文化が交錯するキャンプをしっかりとサポートしてくれた。この夏も、日本に緑のある子どもたち275人が、フロストバレーの大自然の中で仲間たちと元気に過ごした。

(東京-フロストバレーYMCAパートナーシップ 星住秀一)



ユニバーサル野球の開会式で、松井秀喜さん(中央)と

### 【追悼】フォークシンガー 高石ともやさん



東京YMCAで1997年より「バングラデシュ奨学基金チャリティーコンサート」を24回行って下さったフォークシンガーの高石ともやさんが、8月17日に亡くなられました。10月14日に「高石ともやを想う会」が日本基督教団浅草教会で開かれ、82人が集いました。

会は高石さんの「想い出の赤いヤッケ」を歌って始まり、東京YMCA 菅谷淳総主事からの弔辞、その後また高石さんの曲(「長い道」「十字架に帰ろう」「街」「陽気にゆこう」)を皆で歌いました。最後に、参加者各々が高石さんへの思いをカードに書き、献カードを行いました。

高石さんは、思春期問題研究所所長を務められた故江幡玲子先生の「勝つために走るのではなく、人の輪を広げるために走りなさい」というメッセージを受け継ぎ、バングラデシュYMCAの子どもたちにエールを送り続けられました。また、2011年の東日本大震災時には浅草で路上チャリティーライブを行い、東京YMCAの被災地支援活動を支援してくださいました。高石さんは、その音楽と行動力、生き方によって、実に多くの方々に希望と勇気を与えてこられました。

高石さんの生前のお働きに心から感謝するとともに、魂の平安を心からお祈りいたします。

(国際・総合教育事業部 統括 松本数実)

いんぷおめーしょん INFORMATION インフォメーション

■早天祈禱会(12月)■

会員有志が聖書について自分の考えなどを語る「奨励」の後、皆で祈り讃美歌を歌います。クリスチャンでない方もお気軽にどうぞ。

日時:2024年12月2日(月) 7:00~8:00

奨励者:西岡裕芳牧師(日本基督教団弓町本郷教会牧師)

会場:オンライン/山手センター 問合せ:会員部(03-6278-9071)

会員のご案内

「会員」とは、東京YMCAの主旨に賛同し、会費によって活動を支えて下さる方のことです。YMCAは、青少年の健全な成長をサポートし、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるために、より多くの会員と共に活動していけることを願っています。



詳細はこちら

クリスマスオープンハウスのご案内

子どもたちを取り巻く社会をより良くしていくために、ワイズメンズクラブをはじめ、地域の方々のご協力により開催いたします。ご来場をお待ちしております。

【日時】2024年12月8日(日)10:30~15:00

【会場】東京YMCA東陽町センター

【内容】バザー、模擬店、国際喫茶、子どもゲームコーナー、おもちゃ病院、近隣小学校絵画展、ゴスペルコンサート、WEBラッフル抽選会(後日配信) 他

バザー献品のお願い

日用品、贈答品、食料品(生鮮食品以外)、文具、靴・かばん、おもちゃなど、献品のご協力をお願いいたします。

\*新品・消費期限の切れていないもののみでお願いします。

\*古着や古本の取り扱いはありません。

【受付期間】2024年11月1日(金)~12月5日(木)

【お問合せ】東陽町コミュニティセンター(03-3615-5565)



詳細はこちら

東京YMCA メルマガ登録募集中

月1~2回、不定期で東京YMCAの情報をお届けします



登録はこちら

東陽町コミュニティセンター

2024災害スタディ 地域で防災を考える

東陽町センターで9月14日、「2024災害スタディ~防災まち歩き~」を開催し、44人が参加しました。目的は、地域の災害への備えを見直し、顔の見える関係を築くことです。

まず、江東区の防災について地域の特徴や設備などを学び、続いてグループに分かれて防災の観点からまち歩きをしました。消防団員、町会役員、社会福祉協議会の職員などさまざまな立場の人がグループを構成することで、新たな視座が生まれました。その後、グループごとに振り返って気づいたことを出し合い、さらに全体で共有しました。

このプログラムは2018年度より東陽町コミュニティセンターが毎年実施しており、今年度は江東区社会福祉協議会と共催で行われました。年に一度、地域住民や企業、団体、消防団などが集まり防災について考える大切な機会となっています。(広報室)



まち歩きで、消火器ボックスを開けて確認した



グループごとに、まち歩きで気づいたことを出し合った

~災害時の豆知識~

災害時の持ち物の優先順位

- 1.命にかかわるもの(薬など)
2.ないと困るもの(携帯トイレなど)
3.あると便利なもの(カセットコンロなど)



ワイズコーナー

Y'S MEN'S CLUB

Vol.23

「国際」と「交流」の二つの活動を活かして

国際・交流事業というのは「国際交流」ではなく、「国際」と「交流」という二つの活動を支援します。

「国際」活動の一環として、ワイズメンズクラブは定期的に国際大会や地域会議を開催しています。これらの大会では各国のメンバーが一堂に会し、奉仕活動の成果や課題を共有し、交流を深めます。こうした機会を通じて、異なる文化や価値観を持つメンバー同士の対話が促進され、国際的なネットワークが強化されます。また、国際大会では友情や協力の精神が深まり、世界中のメンバーが共通の目標に向けて団結する機会が提供されます。



(写真は2023年アジア・太平洋地域大会in香港)

「交流」は、「ワイズメンズクラブ国際協会」の活動の核となる重要な要素だと思えます。会員同士の交流、特にクラブ、部、区を超えて国際的な交流を通じて、個々の経験や知識を共有し、新たな視点やアイデアを得ることができます。また、クラブは地域社会や国際的な奉仕活動を支える役割を担っており、交流によって会員間の信頼関係を築き、より強固なチームワークが形成されます。さらに、異なるバックグラウンドを持つメンバー同士が集うことで、文化や価値観の理解が深まり、多様性を尊重する風土が育まれます。これにより、バランスを持った国際感覚を持ち、地域や社会に貢献する力が増し、クラブの活動が一層意義あるものとなると思えます。



動画でわかるワイズメンズクラブ

(東日本区国際・交流事業主任 山本剛史郎)

「僕たちのキャンプ~楽しもう編~」

小学3年生~6年生を対象とした、1泊2日のキャンプを開催します。「僕たちのキャンプ」最大の特徴は、中高生のジュニアリーダーがいることです。ジュニアリーダーたちが、わくわくビレッジのスタッフやボランティアリーダーと一緒に、たくさんの楽しい企画を準備してみんなの参加を待っています!

日程:3月8日(土)~9日(日)

対象:小学3年生~6年生 / 定員:20名※応募者多数の場合は抽選 / 参加費:5,775円

申込:12月2日(月)~1月16日(木)※当日消印有効。往復はがきに郵便番号、住所、参加者氏名(ふりがな)、年齢(学年)、性別、電話番号を記入の上、高尾の森わくわくビレッジ「僕たちのキャンプ~楽しもう編~」係までお送りください。

詳しくはお電話またはホームページにてご確認ください

高尾の森わくわくビレッジ

042-652-0911

〒193-0821 八王子市川町55 www.wakuwaku-village.com

高尾の森わくわくビレッジはYMCAスタッフが運営しています